

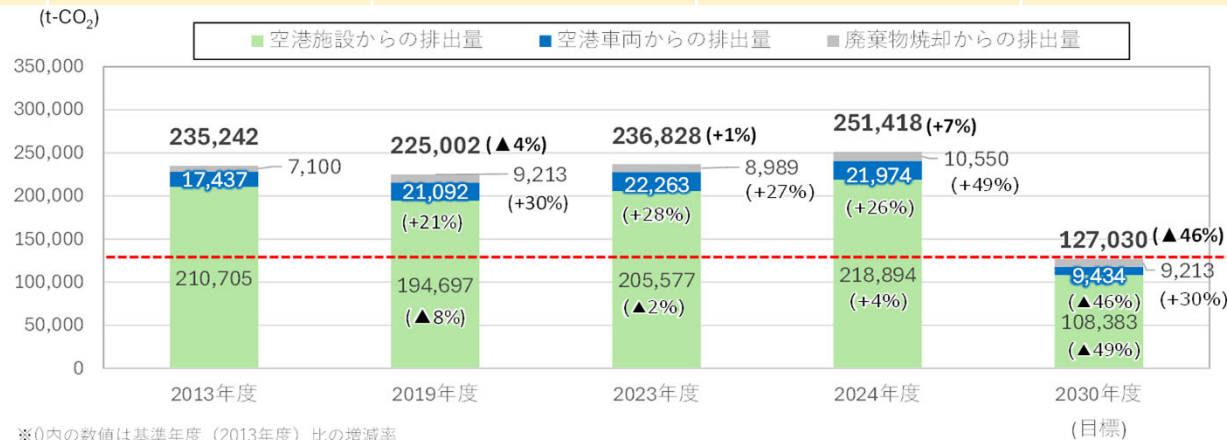
■ 目標

2030年度	CO ₂ 排出量 2013年度比 46%削減	2050年度	カーボンニュートラル
--------	-----------------------------------	--------	------------

■ 取組状況

- 空港の施設**：航空灯火LED化により、CO₂排出量は推定504t-CO₂/年削減。(2013年度比0.2%相当)
 施設照明LED化により、CO₂排出量は推定19t-CO₂/年削減。(2013年度比0.01%相当)
 空調・熱源機器の省エネ化により、CO₂排出量は推定6,801t-CO₂/年削減。(2013年度比3%相当)
 太陽光発電の導入により、CO₂排出量は推定635t-CO₂/年削減。(2013年度比0.3%相当)
 環境価値の購入により、CO₂排出量は推定1,098t-CO₂/年削減。(2013年度比0.5%相当)
- 空港車両**：空港車両のEV化により、CO₂排出量は推定340t-CO₂/年削減。(2013年度比0.1%相当)
 空港車両のBDF化により、CO₂排出量は推定54t-CO₂/年削減。(2013年度比0.02%相当)
 空港車両のHV化により、CO₂排出量は推定9t-CO₂/年削減。(2013年度比0.004%相当)

区分	CO ₂ 排出量 [t-CO ₂ /年]				
	2013年度	2019年度	2023年度	2024年度	2030年度 (目標)
空港の施設からの排出量	210,705	194,697	205,577	218,894	108,383
空港車両からの排出量	17,437	21,092	22,263	21,974	9,434
廃棄物焼却からの排出量	7,100	9,213	8,989	10,550	9,213
計	235,242	225,002	236,828	251,418	127,030



2030年度目標値

■ CO₂排出量の増減理由

- 空港の施設からのCO₂排出量は増加傾向にある。太陽光発電の導入や環境価値の購入、施設照明LED化、空調・熱源機器省エネ化等が進んだが、コロナ禍からの旅客需要の回復や施設の増加により、2019年度に比べCO₂排出量は増加したと考えられる。
- 空港車両からのCO₂排出量はほぼ横這で推移している。
- 廃棄物の焼却からのCO₂排出量は増加傾向にある。旅客需要の増加が影響したと考えられる。

※()内の数値は基準年度(2013年度)比の増減率

※東京国際空港脱炭素化推進協議会構成員からの報告をもとに作成